

場所・面積 兵庫県神戸市、0.2556ha

管理目的 近隣の里山をイメージし、チガヤといった在来種を用いた植栽活動、特定外来植物の駆除活動を通じて、地域と共に環境問題に取り組み、地域の生物多様性に貢献できる空間づくりを目指す。

サイト概要 申請サイトは、コミュニティ型商業施設ブランド「ブランチ」の一号店として、兵庫県神戸市に2013年12月にオープンした「ブランチ神戸学園都市」の敷地東側の法面で、チガヤやススキなど在来の野草を中心とした、バッタやチョウの舞う草はらづくりに取り組んでいる。
ブランチ神戸学園都市は、単なるショッピングセンターとしての利用だけでなく、環境共生を体感できる“学びの場”の提供、また植栽管理を通じて“働き場”も提供しており、地域の方と環境活動を行える地域交流拠点としての役割を担っている。



土地利用の変遷 ブランチ神戸学園都市が位置する神戸市西区の学園都市エリアは、かつては1985年に行われたユニバーシアード神戸大会の選手村として整備された。1990年からは神戸研究学園都市の開発に伴う土地区画整理事業が本格化し、申請サイトも2010年に至るまで全面が裸地の状態が続いていた。その後、このエリアに大学が誘致され、住宅地も整備され、街並みが整然として美しく、歩車分離など安全にも配慮され、機能的な街に成長した。

サイト周辺の環境 学園都市として整備されており、学生などの若者やファミリーが多く街に活気があり、大学と地域の交流や連携が活発で、生涯教育のサポート、地域清掃、子育てや健康づくりの活動などで、さらなる魅力が生まれている。ただし、本施設の周辺は緑が豊富な丘陵地帯であったが、近年は宅地開発の影響で、森林が減少している。

アピールポイント かつての里山の風景を再現するため、市民団体や学識者との協働の下、近隣からの植物種子の採取・育苗や実生の移植を実施している。申請サイトである法面では、チガヤやススキなど様々な在来の野草から成る草原の再生を目指している。また、以下のような取組も行っている。
①施設内には、地域社会・NPOと共に推進する地域の交流と活動拠点「まちづくりスポット神戸」があり、住民とNPO、学校、企業が協働して、少子高齢化や過疎化など、社会をとりまく課題の解決と地域コミュニティを活性化するさまざまなイベントを開催
②建物周辺エリアは里山林をイメージし、コナラやカスミザクラ、ヤブムラサキなどの在来種を用い、野鳥が集まる森づくりを目指している
③建物の屋上では、チガヤやススキなど様々な在来の野草を中心とした屋上緑化に取り組んでいる。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

2015年から、チガヤやススキなどの様々な在来野草からなる草原の再生を行っている場である。
具体的には東側法面で生育しているチガヤを施設内屋上緑化への播種を継続するとともに、外来植物の駆除を行っており、チガヤ群落が順調に拡大し、草地に特徴的な多くの昆虫類が確認されている。

【主な植生】

チガヤやススキなど在来の野草からなる草原

【確認された主な動植物】

<植物>

チガヤ (学名：*Imperata cylindrica*)
ススキ (学名：*Miscanthus sinensis*)

<昆虫類> ※7目21科32種を確認している。

ツユムシ (学名：*Phaneroptera falcata*)
クサキリ (学名：*Homorocoryphus lineosus*)
ホシササキリ (学名：*Conocephalus maculatus*)
ヒナバッタ (学名：*Chorthippus brunneus*)
アオメアブ (学名：*Cophinopoda chinensis*)
シオヤアブ (学名：*Promachus yesonicus*)
ツバメシジミ (学名：*Everes argiades hellotia*)
ベニシジミ (学名：*Lycaena phlaeas daimio*)



写真の撮影年月：2023年6月

写真の説明：近隣から種を採取し播種したチガヤ草群



写真の撮影年月：2023年6月

写真の説明：チガヤ群落で確認されたホシササキリ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

- チガヤやススキなどを中心とした在来植物への入れ替えの継続
- チガヤの播種（約1㎡×20箇所／年）による、チガヤ群落の拡大を継続
- 2回/年の草刈りによるチガヤ播落の維持
- 外来種（オオキンケイギク、セイタカアワダチソウ）の除去を継続

※チガヤ等の入れ替えの際は、申請サイト内または近隣の里山で採取・育苗したものを利用し、地域の生態系の再生を目指す。

※外来植物駆除は地域住民の参加によるイベントとしても開催していた。

モニタリング計画の内容

①専門家と連携した独自のモニタリング

【モニタリング対象】昆虫類 ※鳥類等のその他の分類群への拡大も検討する。

【モニタリング場所】敷地東側法面（申請サイト）

【モニタリング手法】昆虫類相調査 ※目視・写真により同定可能な種リストの作成。

【実施時期及び頻度】2, 3年に1度を想定 ※実施時期については今後検討する。

【実施体制】専門家に依頼して実施

②JHEP認証のための定期審査 ※申請サイトを含む施設全域を対象

【モニタリング対象】カナメモチーコジイ群集、アベマキ-コナラ群集、ホクチアザミ-ススキ群集、チガヤ群落※（申請サイト）※チガヤ群落ではショウリョウバッタを指標種として評価

【モニタリング場所】敷地東側法面（申請サイト）、南側外構、建物屋上、北側外構・植栽柵、北側壁面緑地

【モニタリング手法】ハビタット評価手続き

【実施時期及び頻度】5年に1度、8月

【実施体制】公益財団法人日本生態系協会